

西洋事情

編

特31  
670

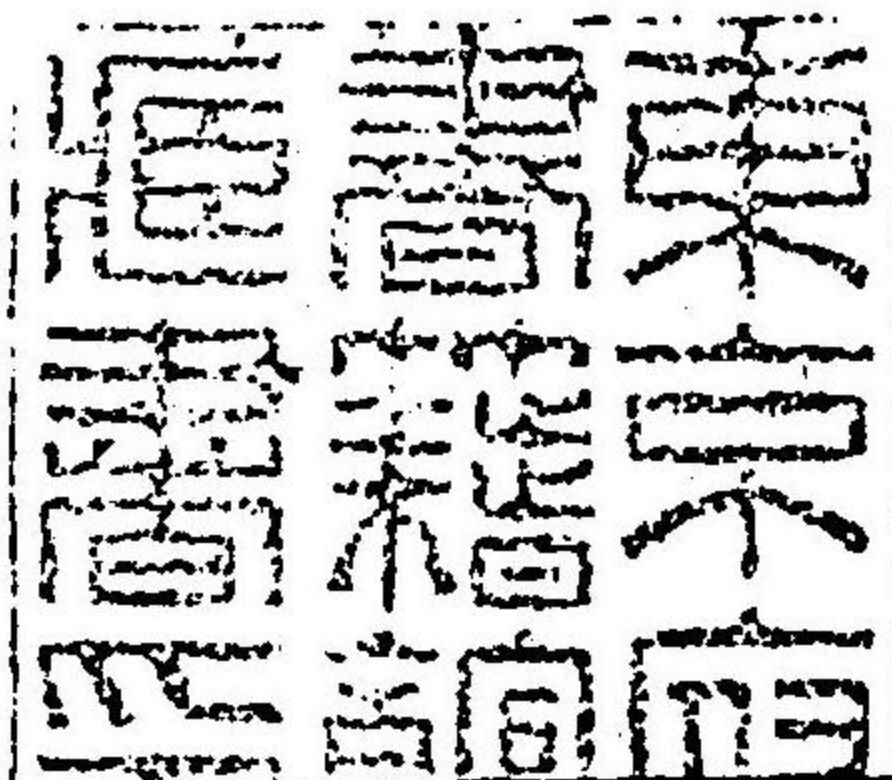
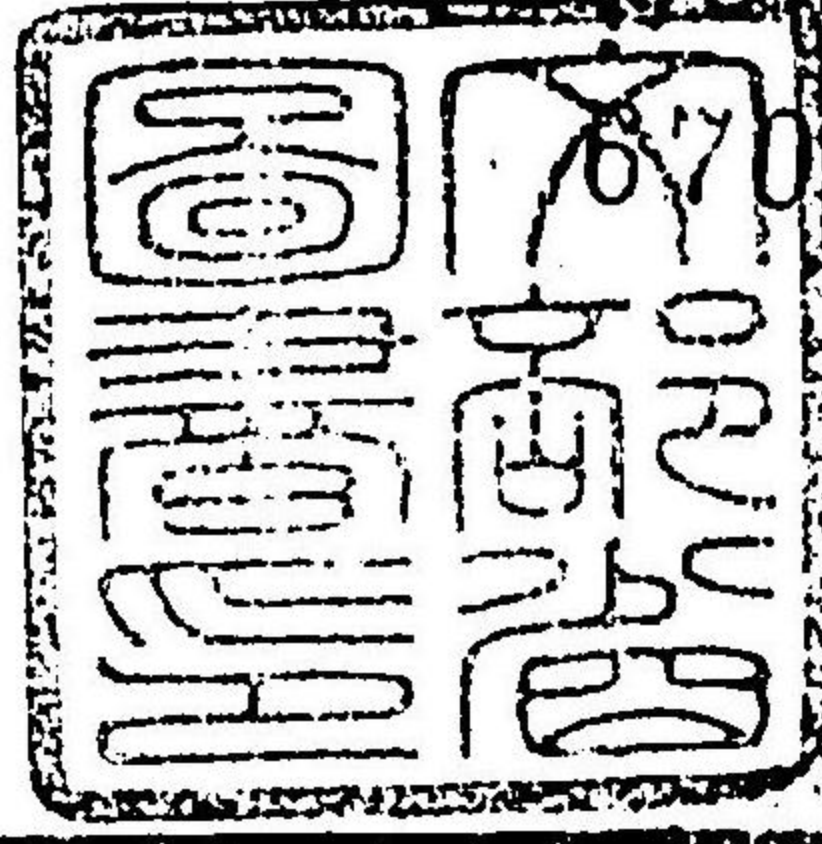
多  
九

東 京 圖 書 館				
一〇〇	五	二	屬	類
冊	架	函		

共  
十  
本



特21



西洋事情ニ編卷之三

佛蘭西

史記

福澤諭吉 纂輯

佛蘭西ノ國名ハ羅<sup>ラテン</sup>旬語ノ「フランシヨリ轉シタル  
 ノニテ「フランシトハ羈絆ヲ脱スル人ト云フ義  
 リ往古羅馬ノ世ニハ此地方ヲ「ゴールト唱ヘシ  
 カ羅馬ノ衰ルニ及テ日耳曼ノ諸方ニ在リシ蠻野  
 ノ種族羅馬ニ叛テ「ゴールノ地ヲ侵略シ自カラ「  
 ランクノ族ト名ケリコレヲ佛蘭西國名ノ始トス

西洋事情ニ編卷之三



紀元四百八十六年「フランク」ノ首長ニ「コロウヒス」ナ  
 ル者アリ年甫テ十九羅馬ノ鎮臺シ「アグリ」スヲ擊  
 テ大ニ之ニ克テ羅馬ノ羈絆ヲ脱却シテ獨立ノ躰  
 裁ヲ成セリ此人ヲ佛蘭西ノ始祖トシ此血統ヲ「メ  
 ロウ」ン「ビヤ」ノ世ト稱スコロウヒス死スルニ及テ其  
 四子國ヲ四分シ各其一ヲ領シテヨリ忽チ内亂ノ  
 端ヲ生シ爾後數十年ノ間兄弟相攻メ骨肉相食ム  
 ノ亂ニ陥リ王室ノ權威次第ニ衰微ヒリ昔者「日耳  
 曼」ニ於テ有功ノ士將ヘハ斧鉞又ハ軍馬ヲ賜リテ  
 其功ヲ賞スルノ風習ナリシガ「フ」ラ「ン」クノ「ブ」ール

ニ移リシヨリ此例ヲ廢シ軍功ヲ賞スルニハ斧鉞  
 軍馬ノ代ニ采地ヲ以テセリ固ヨリ此采地ノ賜モ  
 唯本人生涯ノ間ノミテテ死後ハ復テ政府ニ返ル  
 ノ法ナリシカ「氏」年代ノ沿革ニ從ヒコレヲ子孫ニ  
 傳フルヲ許シテヨリ遂ニ封建世祿ノ勢ヲ成シ世  
 祿ノ貴族愈盛ナルニ從ヒ王室ノ威權次第ニ衰ヘ  
 紀元六百年代ニ至テハ國王ハ唯其名位ノミヲ存  
 シテ實ノ威カナク朝廷ノ政權盡ク大臣ノ手ニ在  
 リ此時ニ當テ大臣「ベ」ン「デ」リス「タル」者アリ  
 「アウ」スタラシヤノ地ヲ領スル「一」二十七年威權最



モ強盛内外ノ事皆其裁斷ヲ仰ガサルモノナシ國  
 王ハ宮中ノ囚俘ニ異ナラスペピン死シテ其子  
 一レスマルテル父ノ位ヲ襲キ屢軍功アリ紀元七  
 百四十一年マルテル死シテ其子ペピン祖父ト立  
 同名  
 ツ此時ニ當テ羅馬ノ法皇希臘ギリキ及ヒロンバルドニ  
 窘メラレテ皇威日ニ衰ルノ勢アリペピン此機ニ  
 投シ竊ニ法皇ヲ助ケレトヲ約シ法皇ノ勅許ヲ得  
 テ佛蘭西王ナルデリックヲ廢シ自カラ國位ニ昇レ  
 リ此血統ヲカラウエンジヤノ世ト稱スメロウエンジ  
 ヤノ家は是ニ於テ亡ヒタリペピン即位ノ後兵ヲ出

シテ羅馬ヲ援ケロンバルド及ヒ希臘ト戰テ頻リ  
 ニ克チ其地ヲ取テ法皇ニ與ヘリ紀元七百六十三  
 年ペピン死シテ長子チャールス位ニ即ク後コレヲ  
 チャールスマント稱ス蓋シチャールス大君ノ義ナリ其  
 天稟文武ヲ兼備シ兵ニ將タレハヨク敵ニ勝テ政  
 ヲ施セハ國ヨク治マル在位ノ間羅馬法皇ト好ヲ  
 厚クシ四鄰ノ國ヲ攻テ勝タザルヲナシ佛蘭西日  
 耳曼ノ兩國ヲ一統シ伊太里ノ南方モ大半其版圖  
 ニ歸シタリ紀元七百九十九年法皇第三世レヲ亂  
 賊ノ爲ニ羅馬ヨリ逐ハレテ佛蘭西ニ出奔セリ佛



王コレヲ遇スル<sub>一</sub>甚ク厚ク護送シテ本國ニ返シ  
 翌年親カラ兵ヲ卒ヒテ羅馬ニ入リ國亂忽チ平定  
 セリ法皇コレヲ悦ビ<sub>一</sub>チャールマンニ帝位ノ冠ヲ着  
 ケ羅馬帝ノ稱号ヲ附與セリ爾後<sub>一</sub>コンスタンチノ  
 ポルノ君ヲ羅馬東帝ト稱シ<sub>一</sub>チャールマンヲ羅馬西  
 帝ト稱セリ紀元八百十四年帝崩ス年七十二歳ナ  
 リチャールマン在世ノ時ニ國ヲ三分シテ其三子ニ  
 與ヘタレ<sub>一</sub>長子二人ハ帝ニ先ツテ死タルヲ以テ  
 少子ロイス帝位ニ昇レリ蓋シ國ヲ割テ兄弟ニ分  
 與スルハ古來佛蘭西ノ流弊ニテ<sub>一</sub>毎<sub>ソ</sub>ニ爭亂ノ端ヲ

開キシ<sub>一</sub>ナレ<sub>一</sub>チャールマンノ英明ナルモ尚コレ  
 ヲ改ルヲ知ラス幸ニシテ二子ノ早死ニ由リ内亂  
 ヲ見サリシガ<sub>一</sub>ロイス帝ノ世ニ至リ又其輻輳ヲ踏  
 ミ果シテ一國ノ爭亂ヲ釀セリ帝ニ三子アリ長子  
 ヲロゼイルト云フ伊太里王ニ封ス次子ヲロイス  
 父ト<sub>一</sub>云フ日耳曼王ニ封ス第三子ハ則チ父ニ繼  
 同名ト<sub>一</sub>佛蘭西王ノ位ニ即ク名ヲチャールスセバルトト  
 テ佛蘭西王ノ位ニ即ク名ヲチャールスセバルトト  
 云フ爾後兄弟五ニ兵ヲ構シテ爭亂止ム時ナシ君  
 上ノ權威日ニ衰ヘ封建ノ貴族次第ニ跋扈シ天下  
 ノ人更ニ王室アルヲ知ラスコレヨリ先キ北方ノ



夷狄ニ「ハルマント」稱スル種族アリ其本國ハ今ノ  
 連國及ヒ瑞典等ニ當レリ此夷民舟ニ乘シテ屢佛  
 蘭西ノ沿海ヲ掠亂シ佛人ノ窘メラル、一、年既ニ  
 久シ紀元九百年代ノ初ニ至リ佛蘭西王「チャールス  
 ゼ・シンプル」西北ノ地ヲ割テ「ハルマン」ニ與ヘ其女  
 ヲ「ハルマン」ノ首長「ロルロ」ニ嫁シテ和ヲ求メタリ  
 「ハルマン」ノ人ハ此土地ヲ得テ益々強大ノ勢ヲ成シ  
 所領ノ地ヲ「ノルマン」ナト唱ヘ名ハ佛蘭西ノ管轄  
 内ニアレバ其實ハ獨立ノ一強國ニシテ國內衆貴  
 族ノ上ニ位シ嘗テ王命ニ從フ「ナシ」爾後「ハルマ  
 シ」ノ國力漸

盛大ヲ極メ紀元一千六十六年其君「ハルマン」ハ英王  
 國ヲ征シ「ナコレ」ヲ服従セシメ「ナコレ」即チ今ノ英王  
 ハ「ハルマン」ノ右ノ如ク王室ノ威權日ニ衰ルヲ以テ  
 後裔ナリ右ノ如ク王室ノ威權日ニ衰ルヲ以テ  
 日耳曼ノ人モ佛蘭西ニ叛キ「サクソ」ノ君ヲ奉  
 シテ帝位ニ即カシ「メリコレ」ヨリ羅馬西帝ノ稱号  
 ハ日耳曼ニ歸シ「チャールマン」ノ餘業ヲ繼テ日耳曼  
 帝ノ名始テ起レリ○「チャールス・ゼ・シンプル」位ヲ廢  
 ヤラレ「バルゴング」ノ君「ロドルフ」位ニ昇リ「レ  
 氏」王威嘗テ行ハレ「ス慢」ニ王土ヲ割テ貴族ニ與ヘ  
 一時其臣服ヲ買フ「ノミ」此時ニ當テ「パリス」ノ君「ヒ  
 ーゴ」ナル者アリ其叔父「エウドス」嘗テ佛蘭西ノ半



國ヲ領シテ王ト稱シ爾後其名稱ハ廢シタレ其  
 實ヲ失ハスチャールズ・ゼンブルノ位ヲ廢セラレ  
 シホモヒューゴ之ニ代ル可キノ威名アレ氏故サ  
 ニ王位ヲ辭シテロドルフ五テロドルフ死スル  
 及テ又他ノ君ヲ撰テ位ニ即カシメ已レ自カラ  
 國權ヲ執レリスノ如クスル三世ニシテ紀元九  
 百八十七年第五ロイス王ノ死ニ至リヒューゴノ子  
 ヒューゴカベト始テ佛蘭西王ノ位ニ昇レリ此血統  
 ラカペチャヤンノ世ト稱ス蓋シ其名ヲ始祖カベト  
 ニ取リシモノナリ○カハナヤンノ始祖ヨリ今帝

ニ至ルマテ歷代ノ順序ト即位ノ年ヲ示ス左ノ  
 如シ

紀元九百	ヒューゴカベト	十二年	第九世ロイス
八百九十	ロベルト	二年	第三世ヒリッパ
六三	第一世ヘスリ	五年	第四世ヒリッパ
一十	第一世ヒリッパ	十年	第十世ロハス
十六	第六世ロイス	四年	第一世ジョン
年百八	第六世ロイス	三年	第五世ヒリッパ
年百三	第七世ロイス	六年	第四世チャールズ
年百八	ヒリッパ・オーグスタヌス	三年	第六世ヒリッパ
年百二	第八世ロイス	二年	
年百二		三年	
年百二		八年	







致シ南ハ伊太里ヲ攻テ之ニ克テ北ハ英吉利ノ伐  
 ラ其國ヲ一統シ又歐羅巴諸國ニテ耶蘇宗ヲ奉ス  
 ルノ君ハ神征ノ師トテ大軍ヲ出シテバレマメイ  
 シノ地ヲ攻メ財ヲ費シ人ヲ殺シ國力疲弊セザル  
 モノナカリシガ獨リ佛蘭西ノ君ノミ靜ニ國ヲ守  
 リ嘗テ世間ノ治亂ニ關係セム無為ヲ以テ却テ自  
 國ノ王位ヲ固クスルヲ得タリ一千百八年第六世  
 ロイス位ニ即キ祖先以來未曾有ノ智勇ヲ抱ト大  
 ニ貴族ノ權ヲ制シタリ蓋シ此時ニ至テハ民庶ノ  
 衣食漸ク足リテ禮讓次第ニ興リ又舊時ノ奴隸ヲ

ルヲ甘ンヤス不羈自由ノ趣意ヲ達セニガ為國王  
 ラ助テ貴族ヲ滅シタルナリ一千百八十年ヒリッ  
 オーグス<sup>ス</sup>位ニ即キ又封建ノ貴族ヲ滅シ其他  
 佛蘭西ニアル英領ノ地<sup>ノルマニシガ</sup>ヲ没入シ  
 テ大ニ王土ヲ開キ其境界前代ニ比スレハ殆ト一  
 陪セリ千二百十四年國內ノ一貴族<sup>フランドル</sup>ス  
 ノ君兵ヲ舉テ英國王<sup>ジョン</sup>及ヒ日耳曼帝<sup>オットー</sup>ト  
 連合シテ佛蘭西ヲ攻メ之ニ克マヌ佛王ハ僅カニ  
 小兵ヲ以テ敵ヲ破リ日耳曼帝ヲ逐ヒ<sup>フランドル</sup>  
 スノ君ヲ捕ヘ<sup>ボウエン</sup>スノ一戰ヲ以テ事ヲ決シタ



リコレヨリ佛蘭西ノ威名歐羅巴全州ニ轟キコレ  
ヲ恐レザルモノナシ爾後コノ餘業ヲ繼ギシモノ  
ハ第九世ロイスナリ此君ノ在位ハ千二百二十六  
年ヨリ始リ千二百七十年ヲ終レリロイス即位ノ  
後ハ祖宗ヨリ遺傳ノ法ニ從テ專ヲ王威興張ノ策  
ニ眼ヲ着ヒリ從來佛蘭西ニテハ無位ノ平民ヲバ  
第三等ノ民種トシテ輕蔑スルノ風習ナリシカレ  
漸ク之ヲ揚クテ直ニ王室ノ制御ニ服セシメ羅馬  
ノ舊法ヲ採用シ議事院ノ制度ヲ正シ裁判刑法  
ノ大局ヲ立テ、次第ニ貴族ノ權柄ヲ奪ヒ王威ノ

行ハル、一昔時ニ百陪セリ下民ニ不平ヲ訴ル者  
アレハ速ニ處置シテ其弊害ヲ除キ貴族ニ暴威ヲ  
逞フスル者アレハ嚴ニ之ヲ罰シテ後患ヲ防キ天  
下一夫モ其處ヲ得ザルモノナクシテ盡ク皆王ノ  
仁徳ヲ仰キ其智勇ヲ感シテ之ヲ貴ハサル者ナシ  
之ヲ慕ハザル者ナシ後世ノ諸王事ヲ為ス可キ才  
徳ニ乏シト雖モヨク王室ノ全權ヲ固守シテ之ヲ  
失ハザリシハ他ナシ皆先王ノ餘慶ナリ後世王室  
ニテ貴族等ノ跋扈ヲ制セントスルキハ常ニ平民  
ノ力ニ依頼セザルナシ古來佛蘭西ノ國議ニ關



係スル者ハ唯貴族僧徒ノミナリシガ第四世ヒル  
ノ時ニ至テ議事院ニ平民ノ出席ヲ許シ王室ヲ  
仰ク者益多ク重大ノ事件ニ遇フ毎ニ王威ノ行ハ  
レサルナシ十三百二年羅馬法王第八世ボニ  
リス佛蘭西王ヲ凌辱シテ之ヲ臣服セシメントシ  
タレハ佛王敢テ屈セヌヨク其國威ヲ持張セシノ  
ミナラス却テ法王ヲ窘メタルモ皆平民會議ノ力  
ナリ○千三百二十八年第四世チャールス死シテ子  
ナシワロイス侯ノ子ヲ迎立ツ之ヲ第六世ヒリップ  
トス蓋シ王室ノ遠孫ナリ初メチャールスノ妹イサ

ミラ英國王第二世エドワルトニ嫁シテ男子第三  
世エドワルトヲ生メリチャールスノ死ニ及ヒ英國  
王外甥ノ縁ヲ以テ佛王ノ位ヲ繼キ全國ヲ英ニ并  
セントノ説ヲ發シテ遂ニ兵端ヲ開キ干戈久シク  
シテ止マズ之ヲ百年ノ師ト名ツク千三百四十年  
英ノ軍艦スロイスニ於テ佛船ヲ珍シ千三百四十  
六年ニハ英國王エドワルトニ萬四千ノ兵ヲ率テ  
侵入シ佛蘭西王ヒリップ精兵十萬ヲ以テ之ヲク  
レシノ原ニ迎ヘ佛軍利アラズ英ノ強弩ニ窘メラレ  
死傷甚ク多シ一日ノ戦争ニ佛ノ歩兵三萬人武士



一萬二千人ヲ失ヒシト云フコレヨリ佛蘭西ノ勢復々振ハス後十年ヲ經テ千三百五十六年英ノ太子ブラッキプリンス僅ニ八千ノ兵士ヲ以テ佛蘭西ニ入リ佛王ジョントポイチールスニ戰テ復々之ヲ破リ王ヲ禽ニシテ英ニ歸レリ是ニ於テカ佛蘭西ノ形勢四分五裂外國ヨリ雇ヒシ兵士ハ國內ヲ奪掠シテ憚ル所ナク農商ハ貴族ノ苛政ニ苦テ諸方ニ蜂起シ政府ノ危急且タニ迫レリ千三百六十四年第二世ジョーン英國ニ死シ太子位ニ即ク之ヲ第五世チャールレストスチャールレス在位ノ間ニ英國王第三

世エドワルト死シテ國內治ラスチャールレス此機ニ乘シ大臣ダグスクリント共ニ謀テ英人ヲ逐ヒ舊地ノ大半ヲ恢復シタレ凡千三百八十年チャールレス世ヲ辭シダグクリンモ亦死シテ國亂復々生ス大子第六世チャールレス位ニ即キタレ凡精神錯亂シテ國事ヲ裁スルヲ能ハズ王族ノ大諸侯オルリーンスノ君トブルボンガノ君ト權ヲ争ヒ黨類相分レ或ハ戰爭シ或ハ暗殺シ事物ノ混亂前日ニ一陪シテ國力大ニ衰ヘ遂ニ復々英人ノ入寇ヲ招キ千四百十五年英佛ノ大兵アジンコールトニ戰テ佛



軍敗走千四百十九年ブルゴングーノ君ジョーン・ゼ・ス  
ールレスナル者オルリーンズノ君ニ欺カレテ殺  
害ニ遇ヒシニ由リ其子ヒリップブルゴングーノ地  
ヲ以テ英國ニ降レリコレヨリ先キ王妃イサベラ  
頗ル姦オヲ抱キ既ニ君夫ノ權ヲ奪ヒ又其所生ノ  
太子ヲ廢セントシ是ニ於テブルゴングーニ與シ  
テ英佛ノ和約ヲ結ビ公主カタリナヲ英國王第五  
世ヘスリニ嫁シテヘスリヲ佛蘭西王ノ嗣子ト定  
メ且佛王在世ノ間ハ誓クヘスリニ執權ノ職ヲ任  
セリ其實ハ全國ヲ舉テ敵ニ與ヘタルヲナレド王

ノ癡狂嘗テ其事情ヲ知ラス後令ヒコレヲ知ルモ  
コレヲ拒ム可キ權ナシ數月ニシテ王ハ病ヲ以テ  
死セリ此一舉ニ由テ佛蘭西ノ國ハ全ク滅亡ニ屬  
シ王室寺院貴族民族一トシテ瓦解セサル者ナク  
太子ハ唯オルリーンズノ孤城ヲ守リ危急且夕ニ  
迫テ盡ク皆恢復ノ望ヲ絶チシガコトニ一女子ア  
リジョアンダルクト云フ年甫テ十八自カラ天使ト  
稱シ佛蘭西恢復ノ命ヲ天ニ受ケシトテ報國盡忠  
ノ大義ヲ唱ヘ遂ニオルリーンズノ圍ヲ破リ太子  
ヲ奉シテレイミスニ至リ即位ノ禮ヲ行ヘリコレ



ヲ第六世「チャールズ」トス千時千四百二十九年ナリ  
 爾後女將ノ勇義ヲ以テ漸ク諸城ヲ恢復シタレ  
 コムペン城ノ急ヲ援ケシキ城將一婦人ト功名ヲ  
 與ニスルヲ耻チ「ジョアンダルク」ヲ欺テ敵軍ノ中ニ  
 陷レ英人捕ヘテ之ヲ焼殺シタリ○英佛ノ兵ヲ構  
 スルノ年既ニ久シ双方唯其國力ヲ疲弊セシムル  
 ノミナリシガ後「ブルゴング」ノ君佛蘭西王ト和  
 議ヲ結テヨリ佛人ノ勢俄ニ面目ヲ改メ千四百三  
 十五年「パリス」ノ人民城門ヲ開テ國王ヲ迎ヘコレ  
 ヨリ國內ノ諸都皆首府ノ例ニ倣テ降伏スルモノ

益多ク數年ニシテ盡ク舊土ヲ恢復シ「カン」イノ一  
 都府ヲ除クノ外ハ佛ノ國內ニ英人ノ跡ナシ○百  
 年ノ干戈始テ止ミ人口俄ニ繁殖シテ百工次第ニ  
 榮ヘ人民恒ノ産ニ就テ又往時ノ艱苦ヲ知ラス王  
 室ハ宗祖遺傳ノ策ヲ誤ラスシテ次第ニ封建世祿  
 ノ權ヲ制シ第十一世「ロイス」ニ至テ王威益盛強ヲ  
 致セリ「ロイス」ノ為人狡猾ニシテ偽計ニ富メリ多  
 方ニ策略ヲ運ラシテ貴族ヲ殺シ千四百七十七年  
 ニ「ブルゴング」ノ君「チャールズ・ゼバルト」ヲ欺テ  
 死ニ陥レ其領地ノ大半ヲ割テ王室ニ併セリ蓋シ



ブルボンザーハ佛蘭西ノ一大諸侯ニシテ數百年ノ間跋扈セシモノナリ其他アンジェーメーンプロヴェンス等ノ地ヲ取テ南ノ方地中海ニ至ルマテ盡ク王土ニ屬シ又西北ノ地方ハブリタニー侯ノ領地ニテ多年獨立ノ勢ヲ成セシガ第八世チャールズブリタニーノ公主アンナヲ娶テ其領地全ク王室ノ版圖ニ歸シタリ此時代ニ至テ火器ノ用法世ニ弘マリ弓馬ノ道次第ニ廢棄シテ封建世祿ノ貴族等又昔日ノ顔色ナシ從來世祿ノ家ニ生レシ武士ハ假令ハ薄祿寒貧ト雖モ軍役ノ重キヲ以テ大ニ

權威ヲ振ヒシカモ當時ノ勢ヲ以テ之ヲ見レハ其功用錢ヲ與テ雇ヒシ歩兵ニモ若カズコレヨリ封建ノ制度俄ニ破レ英國ニ於テハ國ノ權柄下ニ歸シテ自由寛大ノ政躰ヲ立テ佛蘭西ニテハ其權威上ニ集リ一君親裁ノ政府ヲ固クシタリ○第八世チャールズノ時ニ至テハ國既ニ富ミ兵既ニ強シ去レレス天稟ノ氣力ナレト雖モ其國ノ富強ヲ賴テ安ニ大志ヲ抱キ歴山王及ヒチャールマンノ事ヲ行ハントテ千四百九十四年兵ヲ發シテ伊太里ヲ征シテ一ブルニ克タレモ之ニ克ツテ速ナレハ之ヲ



失フモ亦速ナリコロ數年ノ間佛人ハ伊太  
里ノ師ニ奔走シテ財ヲ費シ生命ヲ失ヒ所得ヲ以  
ト所失ヲ償フニ足ラス世ノ謗ニ云フ伊太里ノ國  
ハ佛蘭西人ノ墓所ナリト其言當レリ千四百九十  
八年第八世チャールズ死シテ子ナレ其再從弟オル  
リーンスノ君ヲ迎テ位ニ即カシム之ヲ第十二世  
ロイストスロイスモ亦先王ノ志ヲ繼キ伊太里ヲ  
取ラントシタル功成ラス千五百十五年死シテ  
子ナシロイス王ハ節儉ニシテヨク民ヲ愛シ即位  
ノ後舊來ノ稅額ヲ半減シ戰爭ノ爲ニ政府ノ費用

多カリシト雖氏嘗テ國民ノ煩ヲ爲サス王常ニ云  
フ朕ハ吝嗇ヲ以テ朝臣ノ嘲ヲ取ルモ奢侈ヲ以テ  
萬民ヲ泣シムル莫ラント欲スト疾ノ病ナルニ及  
シテワロイスノ君ヲ召テ嗣子ニ定メ其手ヲ執テ  
云ク朕今死ス此遺民ヲ以テ汝ニ託スト蓋シ死ニ  
臨ムマテ民ヲ忘レガルナリ唯在位ノ間其失策ハ  
伊太里戰爭ノ一事ノミワロイスノ君位ニ昇リ之  
ヲ第一世フランシストスフランシス即位ノ初ハ  
頻ニ伊太里ニ克チ殆トコレヲ押領スルノ勢アリ  
シガ此時ニ當テ日耳曼帝第五世チャーレス  
西班牙



日耳曼帝ニ選舉セラレ  
 兩國兼有ノ一君ナリ 天資英邁既ニ西班牙ノ富  
 強ヲ有シ又日耳曼ノ帝位ニ昇リ威名赫々トシテ  
 歐羅巴ノ諸邦ヲ轟シ佛蘭西王ノ伊太里ニ克ツラ  
 見テ之ヲ悅ハス兵ヲ發シテ佛ヲ敗メ遂ニ二大國  
 ノ争端ヲ開キ佛王慄悍ニシテ善ク戰フト雖氏  
 一レスノ沈勇ニ敵スル一能ハス千五百二十五年  
 パウイヤノ一戰ニ敗シ俘ト為リテマドリット西班牙ノ首府  
 ニ送ラレタリ佛人ハ其君ヲ失ヘ其國躰ヲ失ハ  
 ズカヲ併セテ敵ヲ防キ遂ニ辱ヲ受ル一ナシフ  
 ンシス禁錮ヲ免カレテ國ニ歸リシ後モ敢テ其節

ヲ廢セス日耳曼帝家ノ權ヲ殺カントシテ專ラ其  
 策ヲ運ラシ傳テ第二世ヘスリノ世ニ至テモ佛蘭  
 西ノ國論ハ日耳曼ニ敵スルノ趣意ニテ兵ヲ用ル  
 一三十年遂ニ佛蘭西ノ獨立ヲ固クセシノミナラ  
 ス他ノ歐羅巴諸國モ佛ノ力ニ依頼シテ安全ヲ保  
 ツモノ多シ此時ニ當テ佛蘭西ノ風俗漸ク盛美ヨ  
 致シ王公富豪皆文學ノ貴ヲ知テ其教ヲ助成シ諸  
 家文人陸續輩出シテ佛語ノ美ヲ盡シ圖画彫刻土  
 木ノ學一様ニ進歩セザルモノナシ千五百年代ノ  
 初ヨリ五十年ノ間ハ佛蘭西ノ歴史ニ於テ文明ノ



時代ト稱ス可シ治極テ亂又生ス千五百年代ノ共  
 ヨリ宗旨改革ノ爭論ヲ以テ遂ニ干戈ヲ邦内ニ動  
 カシ五十年ノ日月ハ復タ晦冥ノ亂世ニ陥リタリ  
 初メ第一世「フランシス」在世ノ頃ヨリ宗旨改革ノ  
 議論漸ク佛蘭西ニ行ハレ就中教師「カルヴァン」ナル  
 者其説ヲ首唱シ同志ノ徒甚々多シ之ヲ「ヒューゴ」  
 トノ黨ト云フ其初メ新教ニ歸依スル者ハ唯貴族  
 大家ノミナリシガ次第ニ全國ニ流行シテ無學下  
 流ノ小民ヲ除クノ外ハ國中大半ノ人皆「プロテス  
 タント」ト即チ新教ナリ小民ノ歸依スル宗旨ハ天主  
 教ナリ今日ニ至ルマテ佛蘭西ノ人ハ天主

教ヲ奉ル者多シニ改宗スルノ萌アリ第一世「フランシス」  
 第二世「ヘナリ」新教ノ流行ヲ止メントシ禁制ノ令  
 ヲ下シシレバ人情ノ趣ク所如何トモス可ラス  
 禁令ヲ下シテ却テ其流行ヲ促シ新教ニ投ル者  
 日ニ多ク其勢次第ニ盛大ヲ致シテ唯自由ニ宗旨  
 ヲ表信スルノミナラズ甚々シキハ政治ノ權ヲモ  
 宗旨ノ内ニ籠絡セントスルノ勢ヲ成シ恰モ國內  
 別ニ共立ノ二政府ヲ設ケルガ如シ當時佛蘭西ノ  
 如キ一君親裁ノ國ニ於テハ此新教ノ勢ヲ見テ政  
 府ノ安ザザルハ固ヨリ論ヲ俟タズ廟堂ノ人或ハ



變通ノ策ヲ獻シ之ヲ鎮撫セントセシトモアレバ  
鎮撫ノ策ハ固ヨリ永久ス可キニ非サレバ事遂ニ  
成ラス乃チ其策ヲ改メ王室ハ天主教ヲ助ルトノ  
議ニ決セリコレヨリ天主教ト新教ト黨類相分レ  
各其首魁ヲ奉シ議論日ニ沸騰千五百六十年第二  
世フランシスノ時ニ始テ兵端ヲ開キ千五百九十  
八年ニ至テ漸ク平定ニ歸シタリ第九世キアールス  
及ヒ第三世ヘヌリノ在位ハ二代ヲ合シテ僅ニ二  
十八年ニ過キス此間ニ双方ノ黨類兵ヲ交ルルハ  
度財ヲ費シ命ヲ落ストテ舉テ計ル可ラス新教ノ首

魁ニテ最モ有名ナル者ハ水師提督コリグニ是ナ  
リ天主教ノ黨ハダークヲフガイストヲ以テ巨魁ト  
為シ双方互ニ其説ヲ固執シテ解ケス千五百七十  
二年第九世キアールス在位ノ時天主教ノ諸長竊ニ  
會同シ新教ノ黨類ヲ盡ク殺戮シテ葛藤ノ根ヲ絶  
タントノ議ヲ決シ第八月二十四日ハリスノ府内  
ニ於テ不意ニ兵ヲ發シ先ツ水師提督ノ家ニ入テ  
之ヲ殺シ其他新教ニ關係セルモノノ事跡分明ナ  
ラスト雖ハ貴賤老幼ヲ問ハスニテ屠戮ヲ加ヘ白  
髮ノ病老鮮血ニ染ミ初生ノ赤子母ト共ニ斃レ死



骸山ヲ成シ流血杵ヲ漂ハシ其慘酷名状スルニ堪  
 ヘス八日ノ間ニ五千人ヲ殺シタリト云フ後世ニ  
 レヲバルゾロミニノ屠戮ト名ツク蓋シ第八月ニ  
 十四日ハバルゾロミノ祭日ナルヲ以テ此名ヲ  
 下タシタルナリ此殺戮ヲ行フト雖氏新教ノ人ハ  
 尚其節ヲ執テ動カス下テ千五百八十九年第三世  
 ヘスリ刺客ノ爲ニ殺サレテ子ナシ遺命シテ其女  
 塔ナルナレノ君ニ王位ヲ傳ヘリ之ヲ第四世ヘ  
 スリトス蓋シナレノ君ハ其姓ヲ「ボルボ」ト稱  
 シ第九世ロイスノ後胤ナリ故ニ第四世ヘスリヨ

リ以下ノ歷代ヲ「ボルボ」ノ血統ト云フヘスリハ  
 素新教「ユーゴット」ノ黨ニ與ニシ其首魁ノ名ヲ得  
 シ人ナレハ天主教ノ黨ハ之ニ服セズ唯其天資剛  
 勇ニシテ恩仁厚キ故ヲ以テ漸ク人心ヲ得タリト  
 雖氏結局天主教ニ非サレハ全國ノ人心ヲ籠絡シ  
 難キヲ知リ乃チ自カラ改宗シテ天主教ニ歸シ又  
 新令ヲ下タシテ國內ニ「プロテスタント」ノ宗旨ヲ  
 許シ此新教ヲ奉ムル者ト雖氏公私ノ職業ニ就カ  
 シメ國中ノ諸處ニ出入スル「天主教」ノ人ニ異ナ  
 ル「ナント」ノ趣ヲ布告シタリコレヨリ双方ノ宗



徒各其處ヲ得テ數十年ノ爭論始テ平定セリ此新  
令ヲナシトシ、令ト稱ス○ヘヌリハ大亂ノ後ヲ承  
テ位ニ即キ既ニ宗旨ノ爭論ヲ和シ又隨テ國ノ富  
強ヲ恢復セント欲シ股肱ノ宰相ニシテ共ニ謀  
テ百官ヲ整ヘ刑法ヲ正タシ稅ヲ減シ國用ヲ節シ  
農ヲ勸メエヲ勵マシ文學ヲ脩メ藝術ヲ導キ始テ  
政府ノ躰裁ヲ成シ風俗次第ニ敦ク衣食日ニ饒ナ  
ルヲ得タリ乃チ又先王第一世ノフランジスノ志ヲ  
繼テ日耳曼帝ノ權ヲ制セントスルノ事ヲ企テ四  
萬ノ兵ヲ集メ親ヲ將トシテ將サニ發セントスル

ニ當リ刺客ノ爲ニ弑セラレテ遂ニ事ヲ果サズ予  
時十六百十年ナリ太子繼テ立ツ之ヲ第十三世  
イストス年甫テ九歲太后政ヲ聽キ先王ノ遺臣ヲ  
退シテ嬖人コンシニ用ヒ朝政復タ亂タルロイ  
ス年長スルニ及ヒ母氏ノ舉動ヲ見テ竊ニ之ヲ悅  
ハス千六百十九年嬖人コンシニノ黨ヲ捕テ之ヲ  
誅シ太后ハ出奔シテブロイスニ幽居セリコレヨ  
リ母子ノ間益善ラス太后密ニ近臣ト謀リ兵力ヲ  
以テ昔日ノ權ヲ復セントシ之ヲ試ルヲ二度ニ及  
ビタレト事遂ニ成ラス黨與相分レ物論日ニ喋々

西澤事紀 卷之三 千



リシガ幸ニシテ名臣リセリウノカニ頼リ母子  
離ヲ慰解シテ漸ク國勢ヲ鞏固スルヲ得タリリ  
セリウハ元貴族ノ子ナリ弱冠ニシテ法教ノ門ニ  
入り既ニ英名アリ後政府ニ仕ヘ太后ノ信用ヲ得  
テ漸ク進ミ千六百二十四年宰相ノ位ニ昇レリ口  
イス王モ亦天資暗弱ニシテ國事ニ堪ヘズ專ラ宰  
相ニ委任シテ内外ノ事務一切萬機リセリウノ裁  
斷ヲ仰カザルモノナシ其在職ノ間ニ施行シタル  
政治策略ノ目的ヲ見ルニ之ヲ三箇条ニ分ツ可シ  
即チ第十一世ロイスノ遺業ヲ繼キ封建世祿ノ餘

ニ當リ刺客ノ爲ニ弑セラレテ遂ニ事ヲ果サズ子  
時十六百十年ナリ太子繼テ立ツ之ヲ第十三世ロ  
イストス年甫テ九歳太后政ヲ聽キ先王ノ遺臣ヲ  
退ケテ嬖人コンシニヲ用ヒ朝政復タ亂タルロイ  
ス年長スルニ及ヒ母氏ノ舉動ヲ見テ竊ニ之ヲ悅  
ハス千六百十九年嬖人コンシニノ黨ヲ捕テ之ヲ  
誅シ太后ハ出奔シテグロイスニ幽居セリコレヨ  
リ母子ノ間益善ラス太后密ニ近臣ト謀リ兵力ヲ  
以テ昔日ノ權ヲ復セントシ之ヲ試ル一二度ニ及  
ビタレト事遂ニ成ラス黨與相分レ物論日ニ喋々



リシが幸ニシテ名臣リセリウノカニ頼リ母子  
離ヲ慰解シテ漸ク國勢ヲ挽回スルヲ得タリリ  
セリウハ元貴族ノ子ナリ弱冠ニシテ法教ノ門ニ  
入り既ニ英名アリ後政府ニ仕ヘ太后ノ信用ヲ得  
テ漸ク進ミ千六百二十四年宰相ノ位ニ昇レリ口  
イス王モ亦天資暗弱ニシテ國事ニ堪ヘズ專ラ宰  
相ニ委任シテ内外ノ事務一切萬機リセリウノ裁  
斷ヲ仰カザルモノナシ其在職ノ間ニ施行シタル  
政治策略ノ目的ヲ見ルニ之ヲ三箇条ニ分ツ可シ  
即チ第十一世ロイスノ遺業ヲ繼キ封建世祿ノ餘



風ヲ除テ貴族ヲ壓倒シ國カヲ王室ニ集メントス  
ル<sup>ト</sup>第一ノ目的ナリ又當時<sup>ト</sup>プロテスタン<sup>ト</sup>即<sup>新</sup>教<sup>子</sup>  
ト<sup>リ</sup>ゴ<sup>ッ</sup>ノ宗徒再ヒ盛大ヲ致シテ恰モ一政府ノ  
軀裁ヲ成シ王命ニ從ハリル者アルガ故ニ其勢ヲ  
殺カントスル<sup>ト</sup>第二ノ目的ナリ又日耳曼ノ帝位  
ニ昇ル者ハ<sup>オーストリア</sup>奧地利ノ家ニ限り其權威漸ク増大シ  
テ諸邦ヲ并吞セントスルノ勢アレハ其勢ヲ制シ  
テ佛蘭西ノ國威ヲ耀カサントスル<sup>ト</sup>第三ノ目的  
ナリ以上三箇条ノ目的一トシテ其策ヲ誤ラス法  
律ヲ嚴ニシテ貴族ヲ制シ法ヲ犯ス者ハ必ス刑罰



ヲ加ヘテ其家ヲ没入シ王室ノ親族ト雖凡嘗テ罪  
 ヲ假サス封建世祿ノ舊弊是ニ於テカ始テ一掃セ  
 リ千六百二十六年新教ノ宗徒ヲ攻メ其巢穴ヲ覆  
 サンカ為<sup>ロセルン</sup>ノ城ヲ圍テ遂ニコレヲ降タシ  
 コレヨリ國內ニ新教ヲ主張スルモノナシ宰相ノ  
 威權ハ唯國內ニ行ハルノミナラス其着眼早ク  
 既ニ外國ノ事ニ及ヒ機會ノ乘ス可キアレハ嘗テ  
 之ヲ誤ラス日耳曼ノ亂ニ投シテライ<sup>ン</sup>河東ノ地  
 ヲ取り墮地利ヲ服從ヒシ<sup>ニ</sup>西班牙ヲ征シ其威名  
 遠ク歐羅巴諸邦ニ轟テコレヲ恐怖セザルモノナ

シ功既ニ成リ名既ニ遂ケ千六百四十二年病ヲ以  
 テ死ス翌年第十三世ロイスモ亦世ヲ終レリ在位  
 三十三年常テ政務ニ關ラス唯宰相ニ任シテ疑ハ  
 サルノミリセリカノ為人殘忍ニシテ權謀多ク且  
 其一身ノ行状モ傲慢無禮見ル可キモノナシト雖  
 在國步艱難ノ時ニ當テ政府ノ大權ヲ執リ其事ヲ  
 行フニ至テハ規模常ニ洪大ニシテ成功美ナラガ  
 ルハナシ遂ニ立君獨裁ノ政躰ヲ固クシ王威赫奕  
 ノ基ヲ開キシハ其功業亦大ナリト云フ可シ嘗ノ  
 人ニ告テ云ク新法ヲ設ルハ舊制ヲ實地ニ施スノ



便ニ若カス國ノ惡弊ヲ除クノ要ハ言語ニ在ラス  
シテ實行如何ニ在リト蓋シ宰相ノ心事ナリ魯西  
亞帝第一世ベイトル佛蘭西ニ在ルキ嘗テリセリ  
ウノ碑ニ謁シ歎シテ云ク嗚呼大人ナル哉君若シ  
余ニ教ルニ余ガ半國ヲ治ルノ術ヲ以テセバ他ノ  
一半ハ舉テコレヲ君ニ贈ラント英雄相慕フノ情  
見ル可シ○第十四世ロイス位ニ即クハ年僅ニ五  
歳先王ノ遺命ニ由リ太后政ヲ攝シ王ノ叔父オル  
リンスノ君コレヲ補佐ヒリ後又太后ノ命ヲ以  
テ伊太里ノ人マザリンヲ用ヒ宰相ノ職ニ任シテ

國事ヲ托シ其威權リセリツニ異ナラス此時ニ佛  
蘭西ハ日耳曼及ヒ西班牙ニ敵對シテ國事多端ナ  
レ凡兵ニ將タル者ハグレイト・コンデイ等ノ人物  
アリテ外ニ戰ヒ内ニハ宰相マザリンノ經濟ヲ以  
テ財用ヲ理シ國王幼冲ナリト雖ヒ内外ノ侮ヲ取  
ラス千六百六十二年マザリン死シテ政府ノ權柄  
始テ國王ニ歸シタリロイスノ爲人父ニ異ナリ天  
資豪邁ニシテ英斷アリ恒ニ自カラ謂ラク天ノ人  
君ヲ生スルハ天ニ代テ事ヲ爲サシメントスルノ  
趣旨ナレハ必スコレニ一種ノ明德ヲ附與スルモ



ノナリト其説殆ト夢想ニ近シト雖氏之ヲ信シテ  
疑ハス然ニ自尊ノ心ヲ生シ功ヲ貪テ飽カス難ニ  
遭テ恐レズ遂ニ一世ノ洪大ヲ致シタルナリマザ  
リン棄世ノ即日ヨリ萬機皆王ノ親裁ニ出テ宰相  
大臣ノ如キハ唯書記ノ用ニ使役シテ王命ヲ傳ヘ  
シムルノミコルマルトロヲウイイス等ハ稍宰相ノ  
權アリシ者ナレ氏王ノ籠絡ヲ脱シテ自カラ功ヲ  
顯ハスヲ得ズ然レ氏當時佛蘭西ニテ富國利用ノ  
術ヲ施シ政府ノ歲入モ饒ナルヲ得シハ實ニ宰相  
コルベルトノ功ナリ衣食漸ク洽チクシテ智學モ

亦次第ニ進ミ文明開化期シテ待ツ可キノ勢アリ  
○千六百六十七年英ト和蘭トノ間ニ事ヲ起シ佛  
蘭西ハ和蘭ヲ援ケテ軍艦ヲ出シ蘭ノ海軍總督コ  
イトル英ノ首府ニ入り英人敗走シテ事既ニ平ラ  
ギタレ氏各國ノ政府佛蘭西ノ日ニ強盛ナルヲ見  
テ自カラ安ビス英國和蘭瑞典ノ三國竊ニ結約シ  
テ佛蘭西王ニ迫リビレニスニ盟テ各國ハ其侵  
地ヲ返サシメ大ニ佛ノ國威ヲ制シタリ佛蘭西王  
ハ素ヨリ此條約ヲ悅ハス殊ニ和蘭人ノ舉動ヲ憤  
ルヲ甚クシ乃チ先ツ策略ヲ施シテ英蘭ノ交ヲ絶



タシメ十六百七十二年十萬ノ兵ヲ發シ親カラ將  
 トシテ和蘭ニ入りカヲ盡シテ之ヲ攻レ且蘭人モ  
 亦弱敵ニ非ラス全國内一人トシテ報國ノ義ヲ忘  
 ル、者ナク死ヲ守テ佛ノ兵ヲ防キ陸戰ハ利アラ  
 スト雖且海上ノ戰ニハ和蘭ノ本色ヲ失ハス名將  
 ロイトルノ智勇ヲ以テヨク英佛ノ海軍ニ敵シ遂  
 ニ本國ノ名譽ヲ汚スナシ當時歐羅巴諸邦ノ政  
 府和蘭ヲ救フノ情ニ切ナラスト雖且佛蘭西王ノ  
 威勢ヲ見テ唇亡齒寒ノ患ヲ恐レ日耳曼連國、西班  
 牙、ノ三國兵ヲ出シテ和蘭ヲ援ケ英國モ亦策ヲ變

シテ同盟ニ與シ又一場ノ大戦争トナレリ此時ニ  
 當テ佛ノ將軍ニダレトコンデイ及ヒチュレン  
 テリ日耳曼ノ將軍ニモンテシクアリ和蘭ノ將軍  
 ハ則チ第三世井ルレムナリ天下有名ノ四大將  
 其智略ヲ振ヒ或ハ勝チ或ハ敗シ戦争ノ關ナクニ  
 至ラハ唯用兵ノ巧拙ヲ競ヒ妄ニ人ヲ殺シテ戰ノ  
 本意ヲ忘ル、ト多シ數年ノ間ニ各國ノ力全ク疲  
 弊シテ皆兵革ニ倦ムノ色アリ乃チ英國王ノ周旋  
 ヲ以テ和議漸ク成リ千六百七十五年和蘭ノニム  
 ゼンニ會同シテ各國和睦ノ條約ヲ結ヘリ此度ノ



戦争ハ元和蘭ヨリ起リシナレバ和議成ルニ及  
 テ和蘭ハ嘗テ其舊物ヲ失ハス地ヲ割キ國威ヲ落  
 トシタル者ハ却テ西班牙トスエーデン瑞典トノミ佛蘭西王  
 ハ和議ノ片既ニ其盟主ト為リ王ノ意ヲ以テ條約  
 ノ箇條ヲ定メ土地ヲ得ルト少ナカラス意氣揚々  
 トシテ又天下ニ敵ナキガ如シ和蘭合衆政治ノ大  
 統領井ルレム即チ第三世井ルレムハナリノ如キハ  
 佛人ノ竊ニ輕蔑セル所ナリシガ豈計井ルレムノ  
 謀ヲ以テ再々各國ヲ連合シテ佛ノ跋扈ヲ制セン  
 カ為オウグスボルフニ會盟セリ連合ノ國ハ埃地

利和蘭瑞典サウライノ一國是ナリ佛蘭西王コレヲ  
 開キ敵ニ先テ事ヲ發シ皇太子ヲシテ十萬人ニ將  
 トシテ日耳曼ニ入ラシメヒリプスボルフメンソ  
 スハイルス等ノ諸府ヲ攻テ立トコロニ之ヲ灰燼  
 ト為シ佛兵ノ鋒ニ當ルモノナシ事未タ平ラガス  
 千六百八十八年遇英國ニ亂ヲ生シ國人英王第二  
 世ゼームスノ惡政ヲ憤テ之ヲ逐キ王ノ女塔和蘭  
 ノ井ルレムヲ迎テ王位ニ奉セリコレヨリ第三世  
 井ルレムハ英吉利ノ王位ニ居テ和蘭ノ政ヲ兼テ  
 兩國一君ノ勢ヲ以テ佛蘭西ノ好敵手ト為レリ第



二世セームスハ佛蘭西ニ出奔シ佛王コレヲ扶ケ  
 テ英ニ入レンスレ氏克タズ此時ニ至テ歐羅巴ノ  
 本州英ノ二島ヲ除キニ於テハ戰爭方ニ闌ナリ佛  
 ノ陸軍常ニ利ヲ得テ井ルレムモ亦敗走スルニ至  
 レレケイプラヘーグノ近海ニ於テ英蘭ノ軍艦佛  
 蘭西ノ艦隊ヲ殲シテヨリ佛ノ海軍復々振ハス干  
 戈年既ニ久シク各國ノ政府敢テ和ヲ講スルノ意  
 ナシト雖氏事實其國カヲ竭シテ窘迫ノ餘リニ一  
 時ノ無事ヲ企望シ乃チ和蘭ノベームス井キニ會シ  
 テ和議ヲ結ビ佛蘭西ヲシテ盡ク其侵地ヲ返サシ

メリ實ニ十六百九十七年ノリ佛蘭西ノ國民ハ此  
 條約ヲ悅ハスト雖氏ロイスノ深意ハ機ニ乘シテ  
 暫時ノ太平ヲ買ヒ他ニ一事ヲ企テント欲スルニ  
 在リ蓋シ其一事トハ西班牙ノ王位相續ノ議論即  
 是ナリ西班牙王第二世チャールス老シテ子ナシ歐  
 羅巴ノ人皆其將來ノ相續ニ耳目ヲ着ケザル者ナ  
 シチャールスノ骨肉ヲ尋ルニ其最モ近親ナル者ハ  
 佛蘭西王第十四世ロイス及ヒ日耳曼帝レオポル  
 ト是ナリ佛日ノ兩君密ニ謀リ西班牙王ノ死後ニ  
 ハ其國ヲ二分シテ兩君ノ子ニ與フ可シトノ事ヲ



約セリ西班牙王此密謀ヲ探得テ大ニ憤リ故サラ  
 ニバワリヤノ君ヲ迎テ嗣子ニ定メオレ此君早  
 ク死シ爾後王モ亦前日ノ憤ヲ念レ佛蘭西王ノ孫  
 アンジューノ君ヲ選テ西班牙ノ國位ヲ傳ヘリコレ  
 ヲ第五世ロリツトス日耳曼帝ハ全ク其策ヲ失シ  
 テ得ル所ナクレハ佛ニ對シテ怒ヲ結フト雖氏未  
 タ各國ノ應援ヲ得ス此時ニ當テ前キノ英國王第  
 二世ゼームス國ヲ逃ハ佛蘭西ニ死シ佛王復タゼ  
 ームスノ子ヲ助ケテ英ニ入レントスルノ謀アリ  
 英人コレヲ聞テ大ニ憤ハス元來英ノ政府ハ西班

牙ノ事ニ關ラスト雖氏佛蘭西王ノ處置ヲ怒テ乃  
 チ兵ヲ發シ英蘭兩國ノカヲ合シテ日耳曼ノ應援  
 ヲ為ヒリ當時日耳曼ノ軍ヲ帥ル者ハブリンスエ  
 ウゼン英蘭兩國ノ兵ノ指揮スル者ハ英國ノ將軍  
 マルボロウ全權ヲ以テ号令ヲ施シ進退意ノ如ク  
 ナラザルハナシ及テ佛蘭西ノ朝廷ニ於テハ第十  
 四世ロイス其夫人メニテノシニ惑溺シテ内臣事  
 ヲ用ヒ將師ニ任スルヲ固カラザルカ故ニ兵ニ將  
 タル者ハ國外ノ權ヲ專ニスルヲ能ハス動ヒレ  
 ハ機會ニ後レテ利ヲ失フト多シ十七百四年佛蘭



西ノ將軍タラルド及ヒマルダン六萬ノ兵ヲ以テ  
 バロリヤノ君ニ從ヒ日英蘭ノ合兵六萬人トホク  
 ステツニ戰テ佛軍利アラズ同年ジブラルタル  
 要地西班牙ノ南方地モ英人ニ奪ハレタリ伊太里  
 ノ地方ニ於テハ佛軍稍勢ヲ得テ一時日耳曼ノ兵  
 ニ克テチーリンヲ圍タレモ日ノ將軍エウゼンコ  
 レニ遊キ忽チ其國ヲ破テ佛ノ兵威復タ振ルニ佛  
 蘭西ノ國內ニ於テハ王室ノ子弟頻リニ病死シテ  
 既ニ王ノ氣膽ヲ落シ又之ニ加フルニ饑饉ヲ以テ  
 災禍並到リ事情止ヲ得スシテ遂ニ和ヲ求ルノ

談判ニ及ヒ同盟ノ各國モ初メハ佛ノ請求ヲ拒  
 タレ日耳曼帝ノ死スルニ會シ英ノ政府先ツ其  
 策ヲ變シテ和議ヲ講シ和蘭日耳曼モ其例ニ倣テ  
 双方和親ノ條約ヲ結ヘリコレヲユトレフト和蘭  
 府ノ會議ト稱ス干時千七百十二年ナリ西班牙ノ  
 相續ニ由リ各國ノ兵ヲ動かシテヨリユトレフト  
 ノ和議ニ至ルマテ十二年ノ久シキニ亘リ佛蘭西  
 ノ兵利ヲ失フテ多カリシト雖モ未タ其國ノ面目  
 ヲ穢サス西班牙王ノ位ハ遂ニボルボンノ家佛蘭  
 姓ニ歸シタリ○千七百十五年第十四世ロイス



死ス齡七十七在位七十二年太子早ク死シ此他王  
 室ノ親族モ死亡多クシテ位ヲ嗣ク可キ者ナシ乃  
 チ王ノ曾孫ブルゴンド<sup>ルゴンド</sup>ノ君ヲ迎立ツ之ヲ第十  
 五世ロイストス年甫テ五歳先王ノ姪オルリ<sup>オルリ</sup>ン  
 スノ君ヒリッ<sup>ヒリッ</sup>プ後見職ニ任シテ政ヲ攝ス第十四世  
 ロイスノ時ヨリ連年ノ戦争ヲ以テ全國中ノ貧困  
 ヲ致シ第十五世ロイスノ初年ニ至リコレヲ救  
 トシテ却テ又一層ノ疲弊ヲ極メリ蘇格蘭<sup>スコットランド</sup>ノ人口  
 ウナル者智慧アリテ理財ニ巧ナリ本國ヲ亡命シ  
 佛蘭西ニ來テ後見職ヒリッ<sup>ヒリッ</sup>プニ謁シ紙幣ヲ以テ國

債ヲ償フノ策ヲ獻シテ大ニヒリッ<sup>ヒリッ</sup>プノ信任ヲ蒙リ  
 乃チ其策ヲ施シ又政府ノ權ヲ以テ商人ノ會社ヲ  
 結ビ北亞米利加ニ在ル佛蘭西領ノ地ト貿易ヲ開  
 キ一時其壟斷ヲ私シテ利ヲ得ル<sup>ル</sup>ト多シ國中ノ人  
 其利潤ノ大ナルヲ見テ俄ニ貪欲ノ心ヲ生シ争テ  
 商社ノ手形ヲ買ヒ隨テ手形ノ價ハ騰貴スレド之  
 ヲ買フ者益多シ商社ハ機ニ乘シテ安ニ手形ヲ出  
 タシ國人或ハ産ヲ空シテ唯此手形ノミヲ貯ル者  
 フリ是ガ爲國ノ金銀ハ次第ニ減少シテ手形ハ次  
 第ニ増シ遂ニ又手形ノ價下落スルニ至レリ一旦



下落ノ崩アレハ其勢止ム可ラス商社ニ行テ引替  
ヲ求レバ商社ハ固ヨリ之ヲ替ベキ術ナケレバ手  
形ノ通用忍テ止マリ名ハ千萬ノ財ヲ有スルモ其  
實ハ一片ノ故紙ヲ抱ケルカ如クシテ産ヲ破リ衣  
食ヲ失フ者舉テ計フ可ラスロウハ國民ノ憤怒ヲ  
恐レテ竊ニ佛蘭西ヲ出奔セリ初メロウノ佛ニ來  
リシハハ嘗テ博奕ニ贏チシ所ノ金五十萬ドルヲ  
ルヲ所持シ其後商社ノ全權ヲ以テ巨萬ノ富ヲ致  
タレバ出奔ノハハ僅カニ其生命ヲ全フシテ身ニ  
携ヘシモノハ八百金ノミナリシト云フ○ユト

フトノ和睦ヨリ以來數年ノ間天下無事ノ日ニ屬  
シタリシガ西班牙ノ謀臣アルバローナル者アリ  
妄ニ大事ヲ企テ英吉利ノ王ヲ廢シテ其舊君<sup>第二世</sup>  
<sup>レム</sup>ノ子ヲ立テ日耳曼ニ叛テ西班牙ノ舊地ヲ恢  
復シ西班牙ノ王ヲ以テ佛蘭西王ノ後見職ト定メ  
テ遂ニ西佛ノ兩國ヲ併セントスルノ策ヲ運ラシ  
事未タ發セズシテ密謀先ツ露顯シ英佛日耳曼兵  
ヲ合シテ其罪ヲ問ヒ西班牙王コレニ敵スルヲ能  
ハス乃チアルバローニテ放逐シテ罪ヲ謝シ事速ニ  
平定セリ○千七百三十四年<sup>ポ</sup>ランドノ王<sup>オ</sup>



グスチウス死ス國人共ニ議シテスタニスロース先  
ニ出奔シタルポ  
ラントノ王ナリ  
ヲ迎テ之ヲ立ツ日耳曼帝ハ  
イグスチウスニ左祖シテ魯西亞ニ謀リ兵ヲ發シテ  
又スタニスロースヲ逐ヒ  
テリ佛蘭西王ハ外戚ノ故ヲ以テスタニスロース  
ヲ助ケ遂ニ又佛蘭西ト日耳曼トノ師ヲ起シタル  
氏佛ノ宰相フローリ  
シテ唯一女子アルヲ以テ男子ニ位ヲ傳ルノ舊法  
ヲ改メントスルノ欲アリ乃チ和議ヲ結テ佛蘭西  
ハ侵地ヲ有シ日耳曼帝ハ位ヲ女子ニ傳フ可シト

ノ事ヲ約定セリ此條約ニハ各國ノ政府モ皆調印  
シタル日耳曼ノ將軍プリンスエウゼン獨リコ  
レヲ悅ハスシテ云フ約束ヲ踐マント欲セハ萬卷  
ノ條約書ヲ以テ之ヲ固クスルヨリ一百ノ兵ヲ以  
テ之ヲ守ルニ若カスト其言果シテ然リ乎七百四  
十年日耳曼帝死シテ其女子マリヤテレリ位ニ即  
キ一杯ノ土未タ乾カズ四國ノ君王早ク既ニ帝位  
ヲ窺ヒポ  
君各其口實ヲ設テ互ニ相争フノ勢アレハ干戈未  
タ動カザリシガ先ツ戦争ノ端ヲ開キシ者ハ普魯

西事紀略 卷之三



士王第二世フレデリックナリ是ヨリ先キ普魯士ハ  
 微々タル一小國未タ嘗テ歐羅巴ノ大事ニ関ラス  
 四五十年以來竊ニ富强ノ策ヲ施シテ千七百四十  
 年第一世フレデリックノ死スル時貯蓄ノ金六百萬  
 ドルヲ兵士七萬二千アリ第二世フレデリック不  
 世出ノ英才ヲ抱テ父祖ノ餘業ヲ繼キ羽翼既ニ成  
 テ將サニ翔ラントスルノ勢アレバ人コレヲ知ル  
 者ナシ同年日耳曼帝死シテ後二月ニシテ普魯士  
 王第二世フレデリック三萬ノ精兵ヲ卒ニ突然トシ  
 テシレシヤ日耳曼帝ノ領地ノ地ニ顯ハレ始テ天下シ耳

自ヲ驚カセリ普魯士王無根ノ議論ヲ主張シテ此  
 地方ヲ取ラントシ其口實ハ善ナラザルモ其兵備  
 ノ善ナルヲ以テ忽チコレニ克テ爾後天下一般ノ  
 騷亂ト爲レリコレヲ輿地利相續ノ師ト云フ輿地利  
 家ハ即チ日耳曼帝ノ家ナリ佛蘭西政府ハ此機會ニ投シテ日耳  
 曼帝家ノ權威ヲ壓倒セント欲シ乃チパワリヤノ  
 君ヲ奉シテ日耳曼帝ト爲シ大兵ヲ發シテ日耳曼  
 ニ入り戦フトシテ勝タザルハナク女帝ハ出テ、  
 ホンガリヤニ遁レ日耳曼ノ存亡且タニ迫タレ氏  
 女帝行在阿ニ於テ兵ヲ募リ遂ニ復タ佛軍ヲ破テ



バワリヤノ君ヲ逐フヲ得タリ此時ニ英國王第  
 二世ジョージ舊國ノ故ヲ以テハノーウルヲ領シ第  
 一世ジョージハモトハノーウルノ君ニシテ英國五ノ  
 位ニ即キ爾後英トハノーウルトハ兩國一君ナリ  
 ハノーウルハ日耳曼同盟ノ國ナレハ英ノ政府モ  
 亦日耳曼帝ノ應援ヲ為セリ佛蘭西ハモトハワリ  
 ヤヲ援ルノ趣意ニテ兵ヲ發シタレ氏宰相フロ  
 リノ死後ハ戰議ヲ拒ム者ナク專ラ國力ヲ盡クシ  
 テ兵ヲ用ヒ恰モ首唱ノ勢ヲ成シ英人モ亦他ヲ顧  
 ミスシテ佛蘭西ニ敵シ双方戰ノ本旨ヲ忘レテ唯  
 二大國ノ強弱ヲ競フ一至レリ千七百四十三年カ

チンゼシノ戰ニハ佛人敗走シ千七百四十五年ホ  
 シテノイニ於テハポーランドノ王子サクセ佛軍  
 ニ將トシテ英人ヲ破リ英ノ陸軍復々振ハス但シ  
 水戰ニ於テハ英人常ニ利アリ其後英ノ國內ニ事  
 變アツテ外國ニ兵ヲ出タス一能ハス佛蘭西モ亦  
 和議ヲ欲シテ千七百四十八年日耳曼ノアキスラ  
 シヤペルニ會シテ和睦ノ條約ヲ結ヘリ抑此條約ノ  
 始末ハ實ニ笑フ可キノ甚シキモノト云フ可シ其  
 戰爭ヲ起シタル因縁ハ壞地利ノ地ヲ分裂シ其女  
 帝ヲ廢セントスルノ趣意ナリニ和議ヲ結フニ



至リ瓊地利ハ唯シレシヤノ地ヲ普魯士ニ奪ハレ  
 シノミニテ他ニ失フモノナク女帝ハ位ニ在テ各  
 國ノ政府モコレヲ認シ英モ失スル所ナク佛モ得  
 ル所ナシ唯徒ニ數年ノ間戦ヒシノミ○アキスラ  
 シヤベルノ條約中ニ云ヘルトアリ他事ハ都テ戦争  
 以前ノ有様ニシテ之ヲ守ル可シ云云ト然ルニ亞  
 細亞及ヒ亞米利加ニアル英佛ノ所領相鄰シテ未  
 タ其境界ヲ定メザルモノ多シ千七百四十九年  
 至リ佛蘭西ノ人北亞米利加ニ於テカナダノ境へ  
 英人ノ次第ニ侵入スルヲ責メ此時合衆國ハ未ダ  
 獨立セズカカナダ

佛蘭西領ニテ英人ハ却テ佛人ノ英領ヲ侵ス  
英領ニ鄰セリ責メ争論決セザルト又シ千七百五十五年英ノ政  
 府不意ニ軍艦ヲ發シテカナダ守護ノ佛船ヲ襲ヒ  
 シニ佛蘭西王モ亦直ニ兵ヲ舉クタリ是即十七年  
 ノ師ノ始ナリ所謂七年ノ師ニ於テハ佛蘭西ト瓊  
 地利ト連合セリ蓋シ此二國ハ二百年来ノ舊敵ナ  
 リ又英國ハ普魯士ト力ヲ合セリ此二國モ互ニ強  
 盛ヲ妬ムト久シ友敵ノ變化斯ノ如シ其事情ノ混  
 雜亦推テ知ル可キノミ戦争ノ始ニ於テハ佛人頗  
 リニ克チカナダニテハ英人ノ跋扈ヲ制シ日耳曼



二於テモ英ノ將軍コンベルランド佛蘭訖ニ降テ  
 ハノールノ地ヲ失ヒ普魯士王モ埃地利ノ將軍  
 ダウシニ破ラレタレモ千七百五十七年ロスバ  
 ノ勝敗ヲ以テ戰ノ形勢更ニ一變セリ此戰ニ於テ  
 ハ普魯士王其軍略ヲ逞フシ不意ニ佛埃ノ陣ヲ襲  
 ヒ兵ヲ交ヘスシテ二大軍ヲ破リ次テ又リッザノ戰  
 ニテモ勝利ヲ得勢ニ乘ツテ先キニ失ヒシレン  
 ヤノ地ヲ恢復シ英人モ亦ハノールヲ復シタリ  
 普魯士王ハ頻リニ戰場ニ勝ツト雖モ其國力ハ日  
 ニ疲弊シ且魯西亞モ埃地利ニ與ヒシニ帝國ノ兵

ヲ合シテ普魯士ニ臨ミ其滅亡期シテ待ツ可キノ  
 勢ナリシガ遇魯西亞ノ女帝エリサベス死シテ第  
 二世ペイトルノ即位ニ會セリ從來ペイトルハ普  
 魯士王ノ人物ニ心酔シ之ヲ助ケントスルニ切ナ  
 レハ帝ニ埃地利トノ交ヲ絶ツノミナラズ隨テ又  
 魯西亞全國ノ兵ヲ以テ普魯士ヲ救フ可シトノ  
 ヲ約シタレモ未タ其約ヲ果タサズシテペイトル  
 位ヲ廢セラレ第<sub>二</sub>世カタリナノ世ニ至テハ局外  
 中立ヲ守レリ普魯士王ハ事變ニ遇テ氣力ヲ屈ヤ  
 ス七年ノ間ニ所得甚ダ多シ海外ニ於テハ英人所



トシテ勝タザルハナシ印度地方ニテハ佛ノ領地  
 チヤンデナゴールポングチ等ヲ取り亞非利加ニ  
 テハセ子ガル城及ヒジョージ島ヲ奪ヒ亞米利加ニ  
 テハ西印度ノ諸嶋及ヒカナダノ地方モ盡ク英人  
 ノ手ニ落チタリ西班牙ノ政府英ノ海軍ノ日ニ強  
 盛ナルヲ見テコレヲ驚キ其勢ヲ制セントシテ佛  
 蘭西ト條約ヲ結ヒ援兵ヲ出タシタレ氏却テ得ル  
 所ナク又英人ニ海外ノ所領ヲ取ラレ貿易ノ權ヲ  
 奪ハレタルノミ○争亂日久シク各國ノ人太平ヲ  
 企望シテ和議漸ク行ハレ千七百六十三年佛蘭西

ノ首府パリスニ於テ條約ヲ結ヘリ此戦争ニ於テ  
 利ヲ得シモノハ唯英國ト普魯士トノミ英國ニテ  
 海外所領ノ地ヲ占メ世界中ノ貿易ヲ專ラニスル  
 勢モ此時ニ至テ一層ノ盛大ヲ致セリ○七年ノ師  
 ヲ以テ佛蘭西ハ盡ク海外ノ所領ヲ失ヒ其海軍モ  
 衰微ヲ極メテ諸方ノ海ニ又一隻ノ佛船ヲ見ズ國  
 内ノ風俗ニ至テハ其醜惡殆ト名状スルニ堪ヘズ  
 沈顔面色放棄淫逸國王先ッ其例ヲ示シテ臣下コ  
 レニ效ヒ政刑ハ廢弛シ國用ハ困窮ニ上下交信ヲ  
 失テ民其處ヲ安セズ甚シキハ病院建立ノ為ニ寄



附シタル金ヲモコレヲ奪テ官吏酒食ノ資ニ用ル  
ニ至ル文武ノ官職或ハ寺院ノ僧官ト雖モ錢ヲ以  
テ之ヲ賣買スレハ名ハ官職ナレモ其實ハ狼貪飽  
クコヲ知ラサル者ノ餌食ノミ大凡佛蘭西ノ歴史  
中ニ國風ノ不善ナルハ第十五世ロイスノ末年ヲ  
其最トス概シテコレヲ云ハハ第十五世ロイスハ  
無財無政無禮ノ國ヲ遺シテ其子ニ傳ヘシ者ト云  
ノ可シ千七百七十四年第十五世ロイス痘瘡ヲ病  
テ死ス齡六十四在位五十九年其人物ノ不良ナル  
ハ在世ノ事業ヲ見テ知ル可シ死スルニ至リ人民

皆コレヲ一國ノ幸トシテ其死ヲ祝セザル者ナシ  
ト云フ太子早ク死シ嫡孫立ツ之ヲ第十六世ロイ  
ストス此君ハ幼年ノ時ヨリ祖父ノ行ヒヲ悦ハス  
即位ノ年二十歳既ニ人望アリ第十五世ロイスノ  
末年ニハ佛蘭西ノ政府内外ノ戰ニ敗衄シ政治廢  
壞ノ極度ニ至タレモ其文學ハ嘗テ衰微セザルノ  
ミナラズ益盛美ヲ致シテ諸邦ヲ壓倒シ恰モ武ニ  
敗シテ文ニ勝ツノ勢アリ第十六世ロイスノ世ニ  
至リ此文學ヲ以テ舊弊ヲ一新セントシタレモ如  
何セン國內中人以上ノ種族放僻邪侈ノ習既ニ性



ト爲リ舊物ノ安ヲ甚シテ新法ヲ悅ハス國王ノ天  
資美ナリト雖凡果斷ノ勇ナク且又新法ヲ行ハン  
トスル者モ誠實ノ大義ヲ失シテ慘酷ニ過キ一旦  
事ヲ發スルニ至テハ醉ヘルガ如ク狂スルガ如ク  
事ヲ發スルヲ知テ事ヲ脩ルヲ知ラス遂ニ數十年  
ノ間全國ノ大亂ニ陷リタルナリ蓋シ此大亂ノ本  
ヲ釀シタルハ年既ニ久シト雖凡別ニ又其近因ア  
リ千七百七十六年亞米利加ニアル英國所領ノ人  
民本國ノ苛政ヲ厭フテ獨立ノ兵ヲ揚ケ自カラ亞  
米利加ノ合衆國ト稱シ英人ト戰テ屢利アラズ使

ヲ佛蘭西ニ遣テ援兵ヲ乞ヒシニ佛蘭西王ハ之ヲ  
救フノ意ヲシト雖凡國中ノ人民及ヒ政府ノ官吏  
モ常ニ英國ノ舊怨ヲ報ヒ國辱ヲ雪カントスルニ  
切ナレバ此好機會ヲ空フスル能ハス遂ニ亞米利  
加人ノ請求ニ應シテ千七百七十八年パリヌニ於  
テ亞佛兩國ノ條約ヲ結ヒ其後西班牙和蘭モ亦コ  
レニ與ミシテ共ニ亞人ノ獨立ヲ助ケリ海上ノ戰  
ニハ英人頗ニ勝利ヲ得テ東印度ニアル敵國ノ所  
領ハ大半コレヲ奪ヒ和蘭ノ如キハ海外所轄ノ地  
ヲ殆ド失ヒ盡シタルニ佛人ハ西印度ノ諸島ヲ取



リ歐羅巴ノ諸方ニ於テモ英佛西班牙ノ間互ニ勝  
敗アリ亞米利加ニテモ戦争久シク決セズ獨立ノ  
兵漸ク強盛ノ勢ヲ得テ千七百八十一年合衆國ノ  
將軍ワシントン及ヒ佛蘭西ノ將軍ラフェツタイ亞  
佛兩國ノ兵ヲ以テ英ノ將軍コルンワリスト戰テ  
大ニ勝テ是ニ於テ英國ノ政府モ合衆國ノ獨立ヲ  
許シ各國和ヲ講シテ其舊ニ復シタリ佛蘭西人ハ  
亞米利加ノ戦争ニ功ヲ成セシト雖モ其成功ヲ以  
テ却テ自國ノ騷亂ヲ促セリ此時佛蘭西ノ宰相ニ  
テラクルナル者アリ理財ニ長セリ戦争ノ費冗ヲ償

ハンガ為國債ノ法ヲ以テ財ヲ集メ國債次第ニ増  
シ収税ノ法モ亦隨テ苛刺ナルヲ以テ下民ノ怨望  
スルハ固ヨリ論ヲ俟タズ且又金ヲ出シテ政府ニ  
貸シタル者ハ國債ノ廢壞ヒンテ恐レテ物論日  
ニ喋々タリ又先キニ亞米利加ニ行キ其獨立ヲ助  
ケテ戰ヒテ者ハ數年ノ間亞人ニ接シテ苦樂ヲ共  
ニシ自カラ不羈自由ノ風ニ浸潤シテ歸國ノ後モ  
其氣象ヲ脱スルヲ能ハス既ニ本國ノ苛政ヲ厭ヒ  
顧テ一線ノ水ヲ隔テ英吉利ヲ望見シバ亞米利加  
ノ戦争ニ利ヲ失フト雖モ自國ノ政林ハ嘗テ變動



セス人民皆自由ノ風化ニ浴シ意氣揚々トシテ太  
 平ヲ樂メリ佛人ハ内外ノ景況ヲ比較シ彼ヲ想ヒ  
 此ヲ見テ自カラ亦寛大自由ノ風ヲ慕ハザルヲ得  
 ス是ニ於テ當時ノ宰相カロン子一議ヲ發シ從來  
 貴族及ヒ僧官ト稱シテ稅ヲ免レシ者ヘモ國中一  
 般ノ法ニ從テ定額ヲ出サシメントシウエルセール  
 貴族ヲ會シテ商議數日ニ及バトモ事遂ニ行ハ  
 レス民情益不平ナリ宰相カロン子ハ其說ノ行ハ  
 レザルヲ以テ退職シブリン子之レニ代タレヒニ  
 年ヲ經ズシテ又職ヲ辭シ乃チ復夕前ノ宰相チツク

ルヲ召シテ歸職セシメタリ初メチツクルハ貴族僧  
 官ノ憤ニ觸レテ位ヲ失ヒレガ故ニ再勤ノ後ハ專  
 ラ衆庶ノ議論ニ左祖シテ其地位ヲ固クセシト欲  
 シ王ニ説テ衆庶ノ會議ヲ開ケテ實ニ千七百八十  
 九年ナリ第五月五日ウエルセール十里ニ在ル  
 於テ開議ノ始ニハ國王モ其席ニ臨ヒ事情平穩ニ  
 レテ後患ナカル可キニ似タレ其事實ハ然ラス貴  
 族縉紳ノ内ニモオールの君ノ如キハ其黨與  
 モ多ク竊ニ衆庶ヲ煽動シテ事ヲ起サレメレトシ  
 且僧侶ノ賤シキ者モ平生僧官ノ驕教ヲ惡テ盡ク

西書... 卷之三



下流ノ人ニ與セルガ故ニ衆庶ハ益勢ヲ得テ會議  
 ニ出席セル名代人ナル者自カラ國會ヲレレハ  
 ト稱レテ獨立ノ軀裁ヲ成セリ政府ハ威ヲ以テ之  
 ヲ畏サントレ大ニ兵士ヲ集メ且此事端ヲ開キレ  
 ハ宰相ヲククルノ罪ナリトテ其官職ヲ剥キシニ人  
 心益動揺レテ穩ナラス將サニ大事ヲ發セレトス  
 ルノ勢アレハ佛蘭西ノ貴族ハ從來下民ヲ輕蔑ス  
 ルノ風ニ慣レ貧賤ノ者ヲ見ルト大馬ノ如ク唯兵  
 威ヲ以テ壓伏ス可キモノト思ヒ嘗テ倣成ノ心ナ  
 ク遇市街ニ國會ノ群集セルヲ見テ官兵ヲ遣リコ

レヲ擊タシメシニ事變忽チ破裂シ一都府ノ舉動  
 恰モ一身ノ如ク頃刻ノ間ニ市民變シテ兵士ト為  
 リ自カラ護國兵ガナルト稱シテ大小砲ヲ集  
 メ武器ヲ携ル者三萬人老兵扶助ノ病院ニ屯セリ  
 同年第七月四日バルナ城ヲ襲テ城將ヲ殺シ其  
 強盛殆ト當ル可ラス此時ニ至テ佛蘭西ノ全國黨  
 與二類ニ分レテ其分界甚タ明ナリ朝廷ニ附屬セ  
 ル貴族及ヒ國內ノ諸方ニ在ル封建世祿ノ餘類ハ  
 難ヲ凌シテ其身命ノ權ヲ保タレトシ中人以下ノ  
 輩ハ一旦ノ成功ヲ得タルカ故ニ破竹ノ勢ニ乘シ



貴族ノ暴權ヲ一掃セルトスルノミ國王ハ其中  
 間ニ介リテ躊躇シテ歸スル所ヲ知ラス第八月ニ  
 至リ二名ノ貴族ノイエーデガイロレナル者民心  
 ヲ鎮撫セシガ為從來貴族ノ身分ニ附タル特權ヲ  
 棄テ佛蘭西國中ニ封建世祿ノ痕跡ヲ絶タシトノ  
 説ヲ首唱シテ之ニ同意スル者多カリシト雖比嘗  
 テ其益ナク徒ニ民庶ノ侮ヲ取ルノミ國會ノ人ハ  
 其成功ヲ固クセントシウエルセルヨリ國王ヲ迎  
 ヘテパリスニ歸リ之ヲ御スル一囚俘ノ如クシ新  
 ニ政躰ヲ設ケ主ヲ要シテ新政ニ從フ可シトノ趣

ヲ擔ハシメリ是ヨリ先キ貴族王族ノ脱走スル者  
 多ク邊境ニ集リコンデイノ君ヲ奉シテ勤王ノ兵  
 ヲ舉ケ其勢固ヨリ微々タリト雖氏國王ハ僅カニ  
 妻子ト共ニ宮内ニ居リ鬱々トシテ樂マザレハ乃  
 チ出奔シテ脱走ノ兵ニ歸センヲ謀リシニ其密  
 謀發露シテ又禁錮セラレ更ニ一層ノ苦難ヲ増シ  
 タリ千七百九十二年ブロンヌクノ君換地利  
 普魯士及ヒ脱走ノ兵ニ將トシテ國會ノ巢穴ヲ覆  
 サントスルノ新聞アリ佛人コレヲ聞テ大ニ怒リ  
 王宮ニ亂入シテ先ツ國王及ヒ王妃王子ヲ捕ヘ政

聖書 卷之三



治改革ノ説ヲ悦ハザル者ハ其罪ヲ問ハズシテ盡ク之ヲ殺シ慘酷至ラザル所ナシ就中「ジャーコビン」ノ黨類トテ「ダント」及「ロニスピール」ナル者其魁首ト為リ最モ殺伐ヲ極メタリト云フ騷亂ノ初ニハ國會ノ議論モ平穩ヲ主トシ只管佛蘭西ノ舊法ヲ改革シテ民庶ノ通義ヲ固クシ王室ノ權威ニ分限ヲ定メテ上下一様ニ其處ヲ得セシメントスルノ趣意ニテ專ラ輕舉暴動ヲ制シ殊ニ「ラズツテ」イ「アメリカヨリ歸リ」ノ如キハ護國兵ノ長官ト為リテ固ヨリ民庶共議ノ大義ヲ主張スルニ雖佛

蘭西ノ人情風俗ヲ察シ決シテ勤王ノ旨ヲ失ハス危難ノ際ニ當テ屢王族ノ生命ヲ救フ等ノ處置ヲ施シ力ヲ盡シテ改革ノ成功ヲ全フセレトテ勉メタレ氏事變一度發シテ其勢復タ止ム可ラズ「ジャーコビン」ノ黨與次第ニ暴威ヲ振ヒ遂ニ國王ヲ廢セントスルノ議ヲ發シテ第十二月二十日國王ヲ裁判局ニ下タシ政躰ノ趣旨ニ從フト信ナラストテ無根ノ罪ヲ強ヒ翌年第一月二十日法場ニ於テ斬首セリ年三十九見ル者淚ヲ垂レサルハナシ○國王殺害ノ後ハ共和政治ト稱シテ「ジャーコビン」ノ黨



類事ヲ用ヒ政府ノ舉動恰モ狂スルカ如クナレド  
其狂ニ觸ル、者ハ之ヲ殺シ國中ノ人皆惶恐セサ  
ル者ナシ殘忍既ニ甚シク不信ノ心又随テ生シ當  
時事ヲ用ル者ノ説ニ耶蘇ノ宗旨ハ徒ニ人心ヲ惑  
溺セシムルモノナレハ之ヲ廢スヘシトテ寺院ヲ  
毀テ寺領ヲ没入シ寺ノ宝器ヲ鎔カシテ錢ヲ鑄リ  
其錢ヲ以テ兵士ニ與ヘ國中ニ布告シテ云ク以後  
佛蘭西人ハ自由不羈ノ趣意ヲ信シ公明正大ノ理  
ニ歸依シ此大義ヲ以テ天神ニ代テ可シト粗暴モ  
亦甚クシ名ハ自由ナレド其實ハ然ラズ今般ノ革

命ヲ以テ佛蘭西ノ政治ハ暴ヲ以テ暴ニ代ヘタル  
ノミナラス改革ヲ望ミシ者モ自由ヲ求テ却テ殘  
虐ヲ蒙ルト云フ可シ○歐羅巴諸邦ノ人モ佛ノ景  
況ヲ傍觀スルヲ能ハス各國同盟シテ兵ヲ舉ケレ  
トシ國內ニモ政府ノ暴ヲ惡テ叛カレトスル者ア  
リ佛蘭西ノ政府ハ坐シテ之ヲ待タス敵ニ先テ事  
ヲ起シ内外ノ血戰ニ屢利アリ爾後「パリ」ノ人モ  
漸ク「ジャコビ」シノ兇惡ヲ厭ヒ千七百九十四年其  
黨類ヲ捕テ死刑ニ處シ是ヨリ共和政府ノ躰裁次  
第ニ平穩ニ歸シ兵威ハ益盛ナリ千七百九十五年



和蘭ヲ伐チ一舉シテ全國ヲ滅シ普魯士ハ國論ヲ  
 變シテ局外中立ヲ守リ西班牙モ佛ニ與ミシタレ  
 バ同盟ノ兵ニテ佛人ト戰フ者ハ唯英吉利ト墺地  
 利トノミ同年佛蘭西ノ兵ハ六度ヒ大戰シテ六度  
 七勝チ都城一百二十四處ヲ攻取タリト云ス但シ  
 海上ノ戰ニハ常ニ英人ニ勝タス千七百九十六年  
 佛墺ノ間暫時ノ休戰ヲ約シ大ニ兵備ヲ整ヘテ又  
 戰ハントス此時ニ佛蘭西共和政府ノ兵ニ將タル  
 者ハナポレオン・ボナパルテナリ  
 ナポレオンハ佛蘭西ノ屬島コルシカノ人ノリ千

七百六十九年第八月十五日「アヤチヨ」ニ生レ幼ニ  
 レテ奇才アリ「ブリ」子ノ兵學校ニ入リ十六歳ノ  
 時大砲士官ノ位ヲ得タリ千七百九十四年「ソ」  
 レノ攻ルル片佛ノ領地ニテ政府始テ戰場ヲ試ミテ  
 功ヲ成シ世人皆其非凡ナルヲ知レリ其後故アリ  
 テ官ヲ免セラシ「パリ」スニ居ル「五年貧困極テ甚  
 タシト雖モ勇氣嘗テ衰ヘス其志ノ行ハレサルヲ  
 憤リ或ハ東洋諸國ニ行カン「ト」ヲ想ヒ獨リ自カラ  
 歎シテ曰ク亞細亞州ニハ六億ノ人口アリ世界中  
 事ヲ為ス可キノ地ナリ歐洲ハ既ニ傷耗シテ見ル



可キモノナシト居無何千七百九十六年佛ノ政府  
 兵ヲ發シテ墺地利ト勝敗ヲ決セントスルニ當リ  
 再ヒナポレオンヲ用ヒテ伊太里伊太里ノ領地ナリ  
 征伐ノ將軍ニ命シタリ千時ニ將軍ノ年二十六歳  
 ナリナポレオンハ始テ大兵ヲ指揮シ直ニ南方ニ  
 出テ、海岸ノ地ヨリアルペン山ヲ越ヘントシ其  
 絶頂ニ至リシキハ兵士皆困耗シテ歩ヲ進ル一能  
 ハスナポレオン怒テ云ク飢寒困耗ハ兵家ノ常事  
 其苦ヲ嘗テ熟練ヲ得ヘシ何ソ之ヲ恐ル、ニ足ラ  
 シ伊太里ノ地ニ至ラハ衣食ノ饒ナルヲ得ヘシ功

名ノ美ナルヲ取ル可シトテ馬ニ鞭テ山ヨリ下リ  
 其勢瀑布ノ如ク忽チ墺地利トビデモレトノ合兵  
 ヲ破リナリノ城下ニ迫テ之ヲ降タ  
 レ伊太里南方ノ地ヲ取テ佛蘭西ニ併セリ墺地利  
 帝モ禍ノ自國ニ及ハレテ恐レテ和ヲ乞ヒ佛蘭  
 西ニ敵スルモノハ唯英吉利ノ一國ノミ佛蘭西ノ  
 海軍ハ千七百九十四年ノ戦ニ英ノ水師提督コル  
 下・ホーウノ為ニ破ラレ西班牙ノ軍艦モ千七百九  
 十七年ノ戦ニ失ヒ盡シテ英ノ海軍ニ敵ス可キモ  
 ノナシナポレオンハ既ニ瑞西ニ克チ羅馬ノ法王



ヲモ廢シ天下ニ敵ナシト雖ヒ唯意ノ如クナラサ  
 モノハ英吉利ノミナルヲ以テ乃チ工夫ヲ運ラシ  
 エジプト亞非利加ノ東北ヲ取テ英人ノ東印度へ往來ス  
 ル者ヲ妨ケ其貿易ノ路ヲ絶テ英國富強ノ源ヲ塞  
 カントノ策ヲ立テ千七百九十八年水陸ノ兵ヲ裝  
 ヒエジプトヲ攻メ不日ニシテ其北方ノ地ヲ取リ  
 シニ英ノ軍艦其跡ヲ追テ地中海ニ入り第八月一  
 日アフトキルノ港ニテ佛艦ニ逢ヒ英ノ水師提督  
 ナルソレ一夜ノ戰ニ佛ノ艦隊ヲ破リ或ハ燒キ或  
 ハ奪ヒ佛船ノ道ルモノハ僅カニ二隻ノミ此二

隻ヲ次テ又英人ニ奪ハレタリ實ニ古來未曾聞ノ  
 大勝利ナリナボレオンハ獨リ絶域ニ居リ本國ト  
 應援ノ路ヲ失フト雖ヒ心ニ關セス次第ニエジプ  
 トノ内地ニ入り又東ニ向テ小亞細亞ノ領地コノ地  
 ヲ攻メ至ル處勝タザルハナシ千七百九十九年ニ  
 至リ本國ノ政府ニ事故アルヲ聞キナボレオンハ  
 機ニ乘シテ大事ヲ謀ラントレ兵隊ノ指揮ヲ副將  
 ニ託シテ竊ニパリスニ歸レリ歸路地中海ニハ英  
 國巡邏ノ軍艦多レト雖ヒコレヲ知ルモノナシコ  
 レヨリ先ニ佛蘭西ノ政治漸ク舊ニ復シテ王政ノ



躰裁ヲ成シ議事官ヲ兩局ニ令テ一ヲ舊議負トシ  
一ヲ五百議負ト名ツケ別ニ「ヂレクトルナル者ヲ  
立テ、兩局ノ上ニ位シ行政ノ權ハ「ヂレクトルノ  
官員ニ屬セリナポレオン」歸國ノルハ、奧地利ト「子  
イブル」伊太里ト同盟シテ再々佛蘭西ニ敵シ魯西  
亞モ亦奧ニ與シシ佛ノ形勢甚々危シ國人皆「ナホ  
レオン」ノ英名ヲ慕ヒ此人ニ依頼シテ國威ヲ興張  
セシトスルノ心アルヲ察レ乃チ大議ヲ發シ舊政  
躰ヲ一新シテ「ヂレクトル」ノ官負ヲ廢シ自カラ佛  
蘭西共和政府ノ大統領ト為リ寸兵ヲ用ヒズレシ

全國ノ權柄ヲ奪ヒコレヨリ十五年ノ間佛蘭西ノ  
歴史ハ「ナポレオン」一人ノ傳ナリナポレオン「國權  
ヲ執リシ後遇魯西亞ト奧地利トノ間ニ不和ヲ生  
シテ同盟ノ勢漸ク振ハスナポレオン」ハ此機ニ投  
シ大舉シテ「アルペン」山ヲ越ヘ「メルナルド」ノ絶頂  
海面ヨリ高キ「ハ」ヨリ直ニ下テ敵ノ後ニ出テ奧  
十尺四時雪アリヨリ直ニ下テ敵ノ後ニ出テ奧  
軍ハ不意ヲ襲ハシテ進退ヲ失ヒ尚力戦シタレ凡  
遂ニ「ナポレオン」ノ鋒ニ當ル「能ハス兵器ヲ置テ  
降參セリ此一戰ヲ以テ奧地利帝モ再々和睦ヲ乞  
ヒ佛ニ敵スルモノハ又英ノ一國ト為レリ



ナポレオンニ既ニ諸邦ヲ兵ヲ破リ其志願ハ唯英國  
 ヲ壓倒スルノ一事ナレトモ英ノ海軍ハ子ルソシノ  
 勇略ヲ以テ向テ所勝タサルハナシ概シテ云ヘハ  
 佛蘭西ハ陸ニ敵ナク英吉利ハ海ニ敵ナン獅子山  
 ニ嘯キ蛟龍水ニ蟠リ互ニ雌雄ヲ争テ互ニ近ツク  
 ヲ得ス双方勝敗ノ決シ難キヲ知リ始テ和睦ノ談  
 判ニ及ヒ千八百一年アミーンニ於テ英佛ノ和議  
 成レリ○英佛和睦ノ後ナポレオンハ專ラ國內ノ  
 事務ニ心ヲ用ヒ宗旨ノ法ヲ寛一シテ人心ヲ籠絡  
 シ國ノ政治ヲ次第ニ立君ノ軀裁ニ變シ大統領ノ

在職ヲ生涯ノ期限ニ定メ萬機皆統領ノ獨裁ニ出  
 サルモノナシ○アミーンノ條約ニ從ヘハ英人ハ  
 地中海ノマルタ嶋ヲ棄ツ可キ約束ナレトモ貿易ノ  
 權ヲ失ハンコトヲ恐テ其約ニ從ハス加之千八百三  
 年第五月英國ノ政府ヨリ強償ノ令初編第二卷  
十八葉ニ出  
 出タシテ英國所領ニアル佛船ヲ取押ヘシニナポ  
 レオンハ佛蘭西國內ニ居ル英人ヲ捕ヘ士商ノ別  
 ヲ問ハス盡ク獄ニ繫テ其讎ヲ復シ英佛ノ敵對復  
 タ一新セリ佛兵大舉シテ英ヲ攻メントシ軍裝ヲ  
 整ルルニ當テ遇テ國內ニ亂ヲ生シナポレオンヲ殺



サントスル者アリ乃其黨類ヲ捕テ刑ニ座シ此  
勢ニ乘シテナロレオンハ帝位ニ昇ラントシ使ヲ  
羅馬ニ遣テ法王ヲ召シ千八百四年第十二月二日  
パリヌニ於テ即位ノ禮ヲ行ニ佛蘭西皇帝第一世  
ナポレオント稱セリ歐羅巴ノ人驚懐セザル者ナ  
シ

西洋事情ニ編卷之三終



